

(111) 栃木県加蘇地区の寄栗鉱山

日本のマンガン鉱床について紹介している参考文献(1)を手引きに探査を行った。本鉱山は初回の探査で、容易に現地を確認することができた。数少ない例である。本鉱山跡は、既報の加蘇鉱山跡から、荒井川に沿って、240号を西行していき、寄栗地区のさらに西方にある。図1に、加蘇鉱山跡と、探査の結果確認した寄栗鉱山跡の位置関係を表示している。従って、本鉱山跡への経路は既報の加蘇鉱山の項を手引きに、加蘇鉱山跡までたどり着けばよい。

なを、本鉱山の主要鉱石は、バラ輝石を主としたマンガン鉱石である。

探査日 2012年3月

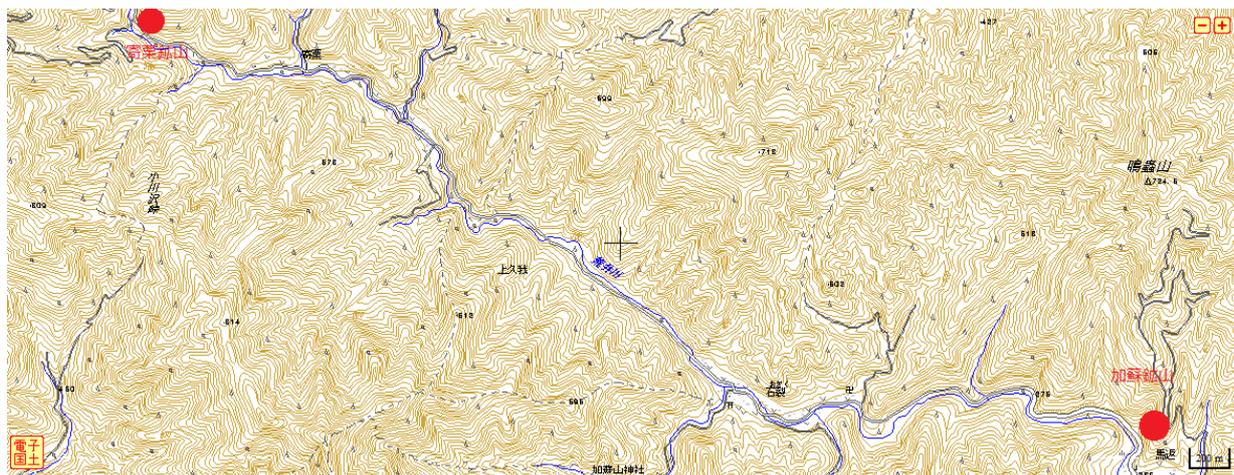


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。右下の赤丸が加蘇鉱山跡。左上の赤丸が寄栗鉱山跡。共に荒井川に沿った240号道路脇にある。従って、現地へは簡単にたどり着ける。というよりは、両鉱山跡とも道路脇にある。

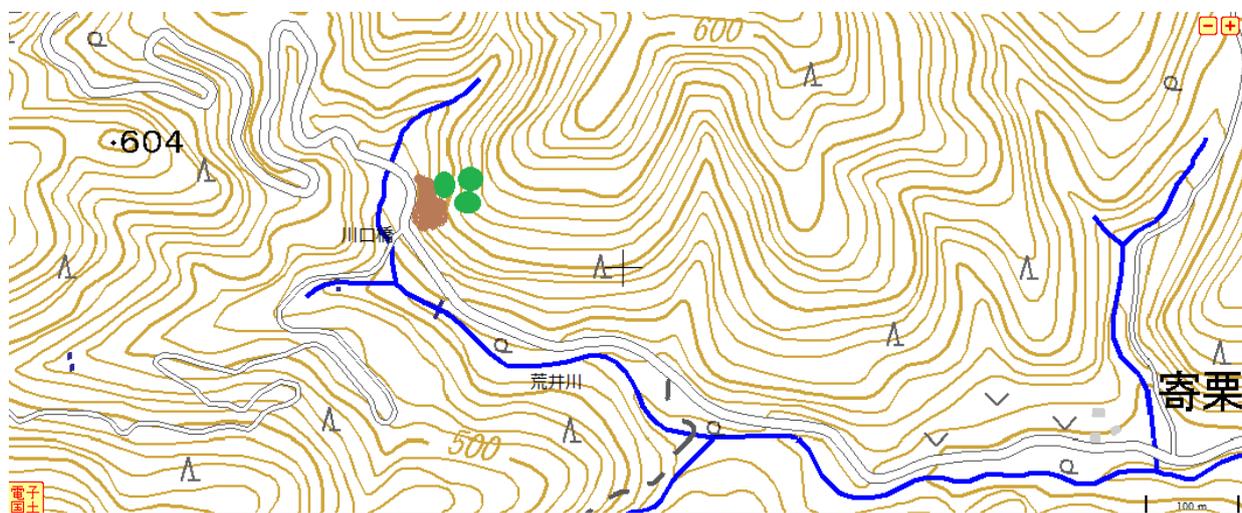


図2 図1の部分拡大図。寄栗鉱山跡。黄緑丸が坑口跡。多数の坑口跡が近接して残っている。茶色部分はズリ跡。

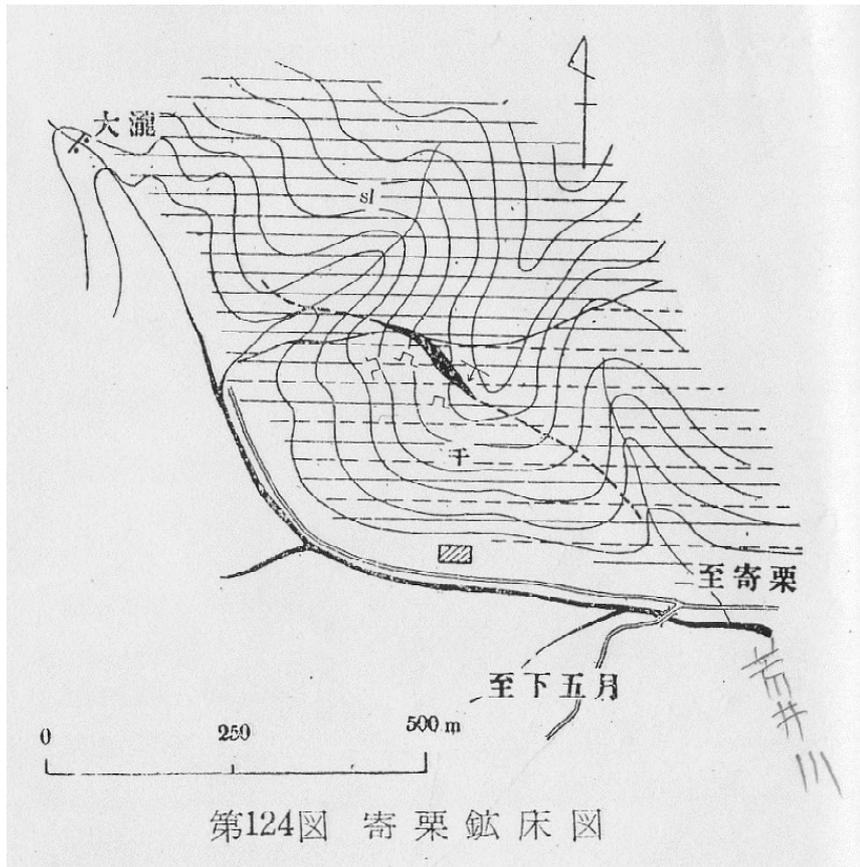


図3 参考文献(1)より複写転載。川と道路の関係は、少しは、参考になるようである。等高線と坑口の位置は、現在の地形図とも良く一致していた。

鉱山跡写真



写真1 荒井川に沿って進んできた。道路は2つに分岐し、左側には、川口橋がかかっている。分岐点には祠があった。何を祈願したものなのであろうか。小さい鉱山に良くある例であるが。現地は、分岐した右側の道の少し先にある。図3によれば、右側の山の中をマンガン鉱脈が貫通しているようである。



写真2 現地で、道路から山側の斜面を見上げている。真ん中上部に、多数の坑口跡があった。手前の斜面はズリである。道路までマンガン鉱が転げ落ちている。



写真3 斜面上にあった坑口の一つ。

採集鉱物写真



写真4 表面が真っ黒く、重い石をハンマーでたたき割ったら、ピンク色の流紋断面が出てきた。マンガン鉱のバラ輝石は良く分る。

参考文献

- (1) 「日本のマンガン鉱床」、吉村豊文、マンガン研究会資料、1952年。